

政令市を実感できる熊本市の魅力づくりを

雇用の創出と交流人口拡大が活路に

今年3月、第52代熊本市議会議長に就任した三島良之議長。「政令市になって3年目を迎え、市民にもようやく政令市を実感できる日が近づこうとしている。雇用の創出や交流人口の拡大などの課題をクリアしながら魅力あるまちづくりを進めなければならない」と話す三島議長に、議長就任の抱負や政令市3年目を迎える熊本市の課題と今後の展望などを聞いた。

(政治経済部 熊谷朋之)

市議会を身近に感じられる存在に

—議長就任から4カ月が経ちますが率直な感想と抱負は。

三島 身に余る光栄であり、非常に責任の重さを痛感しています。職務は思っていた以上に多忙な日々ですが、その中でも、できるだけいろんなところに積極的に出かけるように心がけています。さまざまな会合などで、市民や団体の方々と触れ合うことで、市議会を身近に感じていただけるきっかけにもなると思っています。今後、一人でも多くの市民や団体の方とお会いしていきたいですね。

—市民の方々と触れあつて意見を吸い上げるといふことですか。

三島 市民の皆さまがどういふ意見

を上げられているか。意見を吸い上げることは大事です。そのために市民との距離を縮める努力をしながら、さまざまな要望や陳情に応えていくことが議員の役目であると思っています。

—議長の立場から見て今の議会の課題などは。

三島 それぞれの議員が専門性を持って頑張っています。加えて総合的なレベルを上げていく努力が大切だと思えます。そのためには、地位は人をつくとはいえませんが、議長や委員長などのポストを早くから経験することも、総合的にスキルアップするための原動力になると思えます。

熊本市議会

三島良之

議長に聞く

—政令市に移行して3年目を迎えます。熊本市のポテンシャルをどう捉えていますか。

三島 政令市3年目を迎えても、おそらく市民は、政令市となった効果を実感することは、まだ少ないと思います。しかし、今後2〜3年には実感できてくるのではないかと感じます。

—政令市になって財源が今まで以上に大きくなって、経済や農政などの各分野でこの財源を活用した事業が少しずつ動き出していると思います。

また今年3月までに財源や権限委議にかかる県からの応援職員の引継ぎを終えて、今年度からは熊本市独自で取組む必要があります。職員はものすごく頑張っています。それが形となって市民にも実感で

きる日が近づいていると感じます。

—今後のまちづくりや市政の発展についてどう考えていますか。

三島 人口減少社会への対応は避けて通れない課題だと思います。ただ熊本市の子どもの出生率は政令市の中で第2位ですから、それだけ子育て環境は良いということだろうと思いますが、ただ一つ課題となるのは、働く場が少ないことです。働く場があつて環境が良ければ、子どもの出生率は上がっていきますので働く場を増やしていくことが大事になると思います。

—働く場を確保するための対策については。

三島 雇用の場の創出として企業誘致に向けた環境整備に取り組んでおり、コールセンターなどを中心にこの2年間で約1千人近い雇用が確保されることとなりました。

このほかにも、オフィス進出を高めるための施設建設を促す助成制度や工業団地などへの立地も積極的に行っており、さまざまな形で雇用の場を増やしていく取り組みがなされています。

—もつと伸ばさないといけないと思うところは。

三島 いろいろとありますが、熊本は企業が少なく、90数%が個人事業で、零細企業や商店などが中心となっています。だからこその地元だけではなく、観光客も呼び込みながら商売しなければなりません。熊本市の人口はおよそ74万人で、近隣を入れた熊本都市圏の人口は100万人です。地域の人は、生活必需品中心で食べ物や衣類、電化製品も最低限度しか買いませんから、熊本市と近隣を含めた都市圏だけの人口に頼ってばかりではやっていけません。やはり観光客をはじめ、訪れる人を増加させ、本市でお金を思い切つて使ってくれる要素を増やすしかないと思います。また外国人観光客も視野に入れるべきではないかと考えています。



みしま よしゆき
1946(昭和21)年3月5日生まれ、68歳。熊本市出身。熊本工業高校-熊本歯科技術専門学校卒業。卒業後は同校にて約10年教諭として勤務。その後、八浪知行元県議の秘書を20年、浦田勝元参院議員の事務局所長を5年間務めた。ほかに、県選出国会議員団秘書会会長を務めた。2003年4月熊本市議選に出馬し、初当選。現在3期目。今年3月24日付で第52代熊本市議会議員に就任

三島 それぞれの区では肅々と時

MICE施設は 慎重な議論が必要

—交流人口を増やすということでは桜町再開発のMICE施設は重要な施設になると思います。

三島 計画については議会で了承しましたが、これをどうやっていくか、限られた財源をどの程度使うのかなど市民の理解を得ながら、今後とも議会と行政で慎重に議論していかないとけないと思います。また学会も医療だけでなくさまざまな分野があり誘致活動が必要なことも間違いありません。これからどう取り組んでいくか、それぞれの立場で考え議論していく必要があると思っています。

—今後の地域のまちづくりについては。

間をかけてまちづくりを行って、今からそれぞれの区の特徴を出していけばいいと思います。それには行政も民間も一緒になって、まちづくりをしていかなければなりません。熊本市圏では人口100万人構想と

熊本の豊かな水を都市の魅力に

—人口減少社会を見据えたまちづくりも今後のポイントになると思います。

三島 人口減少社会は避けて通れませんが、これに対応した多核連携のコンパクトなまちをつくるのが大事だと思います。医療、福祉、教育、商業などいろいろな施設がすべて集まったコンパクトシティという考え方をいち早く取り入れることで、住み良いまちになり、環境が良いまちとして移り住む人も多くなると思います。

おそろく日本中にそういうコンパクトなまちが形成されていくと思います。そうになった時に熊本の魅力となるのは水です。熊本市は昨年3月、国連「生命の水」最優秀賞を受賞しました。その水は、単に恵まれただけではなく、先人たちが育み守り続けてきたものでもあります。そして現在も、山に木を植え、大津、菊陽の水田に水

して、医療福祉、消防、または産廃などの問題に対して隣接している自治体と広域で取り組んでいきます。これからはそれによって無駄を省いて、より細やかな作業ができることになりま。

を張るなどの取り組みを周辺の市町村と一緒に進めていきます。この豊かな水を守るという取り組みを後世に残していかなければならないと感じますね。

—最後に、三島議長は約30年間秘書を経験し、政治家としてのモットーは「滅私奉公」ということですが、今後の抱負は。

三島 30年の秘書経験というのはやはり誇りで、多くの実務を学ぶことができました。ただ、それに奢ることなく、いつでも謙虚さを忘れないことを常に心がけています。モットーの「滅私奉公」は、まさに人のため、世のためということ。利益だけを追求するのではなく、公人としてできる限りのことを、自信を持ってやっていきたいと思っています。

—ありがとうございます。